【表紙】
名流時局演芸風景　全三巻

【表紙　裏】」

【1頁】
名流時局演芸風景　前編
全三巻　六八一米

台湾総督府
O第五四八号
検閲済
有効期間
自昭和十八年六月二十五日
至昭和二十一年六月二十四日

活動写真「フィルム」検閲検閲規則第十條第二項ニ依リ手数料ヲ免除ス
制限　一、フィルム制限事項　第三巻中、
（1）丸山和歌子ノ九段の母演奏の場面切除九九米之二伴の歌詞除失　（風俗）
二、説明台本抹消
□□□前項切除ニ依り除失部分ニ相当スル説明台本ノ辞句抹消　台湾総督府

【2頁】

【3頁】
名流時局演芸（前編）　全三巻
――　梗概　――
中村昭彦アンサンブルのアコーデオン合奏、喜代丸の歌謡曲、林家正蔵の落語、九貴廉子の舞踊、軍事漫談、演花亭□太郎の浪曲、軍事漫才、以上の演芸を放操したるものなり
――　梗概　完　――

【4頁】
第一巻
【4頁、上段】
（字幕）
1、原泰

オールキネマ社
2、名流時局演芸　前編
3、構成　山田秀三郎
監修　佐々木杢郎
撮影
指導　ヘンリー小谷
撮影　対馬　寅雄

【4頁、下段】
（音）
1　音楽

【5頁、上段】
アコーデオン
中村邦彦アンサンブル
編曲指導
中村邦彦
アルフレッド加藤
若林秀郎
大野　仁
奥野顕花

5、歌謡曲
母ぢやもの
喜代丸

【5頁、下段】
2　アコーデオン合奏

3　伴奏
4（母ぢやもの歌詞）
〜女ながらも選ばれて
今日はほまれの赤十字
明日の生命は惜しまねど

【6頁、上段】

【6頁、下段】

乳房痛むよ母ぢやもの
〲□っておいでよおとなしく
強い日本の子供なら
やがつて希つたその時は
房をはなれす子守唄

（第一巻終）

【7頁】

第二巻

【7頁、上段】

1、落語　　椎撰完物
林家正蔵

【7頁、下段】

1、（発声）背の高い人が前に座ちやったね、土俵が見えなくなつてしまつて、すみません、あの背の高い人一寸ネ帽子だ眠って□きないのですがおい〳〵のっぽシヤツポを取ってくれ、シヤツポをシヤツポをその取つてもとらなくても同じ頭だネ、おそろしい長い頭だネ、シヤツポの中はむくだつだのか□、頭が長いぞ、何を！頭が長いだつて道々と長くしてあるのぢやありません、生れつきだぜ、親を呼んで□なない□を！何だつてそんなに長く□

【8頁、上段】

【8頁、下段】

へたのだ、子が□□□ふところへ□い、頭を

切れば血が出て終ふ、血が出たら諦めろ、あさましい世の中だ馬鹿な事云ふナ……一寸□頭が長い人達にお気の毒ですけれども頭を一寸横に寝かせて頂きたいのですが、そう優しく言つて下さればよろしいのですけれど……□に□づかせればいいのでせう。
どうですか、この位ぢや　頭がくたびれるなこら今度来る時は枕を持つて来やう。男女川が横に見えるネ、双葉山逆様になつたぢやないですか　どうですか、これ位ではしうがないんですな、横にされた人では八人一遍

【9頁、上段】

【９頁、下段】

に見えなくなつてしまう。□□□な事を云つてすみませんけれど前にこ□□で・・・・・るさいネ、どうも人の頭だと思つて□□なことを云つてやがる、どうですかこの位ぢや、あゝすみません、どうもありがたう御座いました、男女川、双葉山□ナノガワレ、面白うござんすか誰だい面白う御座んすかナンテ、面白いから見に来て居るんですヨ、子供みたいなことを云ってゐるのは誰！イヤ私なんです何しろこ□んでしまつたので、土俵が□□見えないのですが前の人のお尻ばつかり見えて居るのですけれども面白いも何もないのです、よく又出つぱつたネこれハあの□□

【１０頁、上段】

【１０頁、下段】

伺いますけれどあなたのお尻からが□□□□を考へたんんですが大きなお世話だい、何云ってるんだい、イヤこっちの人が伸び上がつて居りますから一寸頭を替わつて□、□つ□出ますから、双葉山！あ〃くすぐつたい、誰だいそんな所をくくって出たのは、頭の長い人が□つたネ、コラ何だつて□新で人の体を□つて行くのだ、泥棒―。冗談言つちやいけませんあなたの体をくくつたつてあつしは何にも取つたものはありません、こゝにおできが出来て斉薬を貼つておつたのだ頭をひつ□けて持つて行つたぢやないかホントニ、大変な騒ぎです、巻煙草を吸ひながら観て居る人が居

【１１頁、上段】

【１１頁、下段】

つたのですが余り大相撲になったので夢中になつて手を叩くと下の座敷で□小鉢□で観て居りましたお兄さんの頭の上へスツとそれが落つこつてゴロ〳〵ところがつて□□で□□がつた煙草がつかへて煙草の火が手ぬぐいに移って端の方からボツ〳〵燃え初めた、しっかりやつてくれ、双葉山！暑いぞ！今日の相撲は暑いぞ！双葉山、しっかりやつてくれ、暑いわけだよあの人燃えてゐるもの、教へてやろうか、お兄さん、大事ですヨ、なに云ってゐるんだい大事だつてなんだつてこの相撲見なければ、家に帰れないですヨ、双子山！あなたの頭

【１２頁、上段】

五、□踊

夏□の女

九貴廉子

【１２頁、下段】
が燃えてゐるのですよ、□の頭が、安心しろこれ位焼けたつて女□さんのことを思へば何ともないヨ……

２、伴奏
３、（歌詞）
〜戦□の声や□の歌
後はたのむのあの声よ
これが最後の戦地のたより
今日も遠くでラツパの音
想へばあの日は雨だつた
坊やは背でスヤ〳〵と

【１３頁、上段】
六、軍事漫談
立花六三郎
北村栄二郎

【１３頁、下段】
有を□に戦つて居たが
頬に涙が光ってた
御□事のお帰り待ちますと
言へばあなたは勇々しくも
今度逢ふ日は来年四月
靖国神社の花の下
４（発声）
「……ちかつて国を出たからワ……」
「相変らず元気だナ、」
「自分は元気であります」
「くにのことを思ひ出さないか」
「斯うして居ればくには思ひません」

【１４頁、上段】

【１４頁、下段】
「偉いナ　山坂に兄弟はあるか」

「あります」
「弟が居るのかい」
「いや妹です」
「妹か？」
「それが女です」

「当り前ぢやないか、そんな馬鹿なことを云ふな貴様オイだが和軍（くに）は何処だ？」
「くには日本です」
「日本は解って居るが県は何県だ？」
「県は石川県です」
「石川県は何処だ」
「石川県は越中富山……」

【１５頁、上段】

【１５頁、下段】
「石川県は越中富山の・それは富山県だらう」
「あゝそうか見当ちがい……」
「見当違いに肘挙して居るんぢやないぞ富山県は町かそれとも村か？」
「ずっと田舎です」
「何群の河村か？不思議ぢやいかん明瞭に答をして見ろ」
「富山県」「富山県」「東富山郡」「東富山郡」「西富山村」「西富山村」「字」「字」「南富山です」
「おい〳〵誰が東西南北だ尋ねて居る、そんな処があるか？オイしかし山坂入隊する前地方出でどんな業に暮して居つた」
「自分は薬屋です」

【１６頁、上段】

【１６頁、下段】
「あゝそうか」「ハイ」「もつとも富山は薬の名産地だ□やな薬が沢山出る処で、有名な薬があつたぢやないか？」
「ありました」
「何と云ふ薬だ？」
「あれは越中富山の反□丹」

「あゝそうか反□丹か」そう云ふ□があんぼんたん……あんぽんたん」
「そうであります」
「越中富山の薬は売声があるのか？」

【１７頁、上段】

【１７頁、下段】
「あります」
「あつたら一つやつて聞かせないか」「こゝでやるんですか？」「やってみい〳〵」
「つまらぬものですがやります」
「掎塚山、山椒魚シューセンダイロイカツの古屋孫太朗忠子供一切□の妙薬今日はフッハッハッハ」（笑い声）
「さうか行商人をやつて居ったのだナ」
「いやあの旅あきんどです」
「旅あきんども行商人も同じだが……」
「今度改正になつたのです」
「そんな馬鹿な事を云ふナ」

【１８頁、上段】

【１８頁、下段】
「併し子供の方の薬専門か？」
「小児科の方ですナ」
「医者ぢやないぞ」
「いや併しナ山地戦争はこれからだ」
「そうですか」
「まだ〳〵大きな奴が百□に控へて居るから……」
「いつです？」
「お互に□□をがつちりと養つてやらう」
「ハイ」
「おい敵にぶっつかるには何にもないぞ」
「ハイ」
「怨と日本魂ただ二つあるのみだからナ」
「我等には山本魂があるですか」

「あっ！山本のもはいらんもはいらん」

【１９頁、上段】

【１９頁、下段】
「これから出た！」「何か！」
「もう要らんと云ふのわ」
「馬鹿な事を云ふナヨ貴様」
「もう一遍云ってみい」
「山、山本あ、そうか」
「山本は自分だが」「□いっ！」
「日本魂であります」
「よしその日本魂だ」
（第二巻終）

【２０頁】
第三巻

【２０頁、上段】
１、旅時
壷坂霊戦記
浪花縄太郎

【２０頁、下段】

１音楽
２三味線の春
３（節）

日は西山に傾く頃夫の前に乎たつ、お里
「時刻は早うござんすが、お山の道が悪い故お里はこれから上りますが・・・・・・」
「済まぬが一緒に上りてたも」
「交□しませう、立たしやんせ□市っあん」
妻は夫を□はりつ、夫は妻に慕ひつ、頃は六月中の頃、夏とはいへど片田舎、水辺の森もいと冷し、小田の早苗も青々と、蛙の鳴く声

【２１頁、上段】
２、時事　萬才
ヤジロウ
キタハチ

【２１頁、下段】
此処□処行くも家の□□れ、よう〳〵登る壷坂山、明月や浅□に銀の一ツ□、置いたる□く挿し込みし河□の月を拝みつゝ、壷坂山の□谷

４、音楽
５、（発声）
「大いに張切る時代ですネ」
「さうだネ、益や吾々は張切らなければいかんネ」
張切ると云へば独逸のヒトラーは偉ひ張切り方ですネ　偉ひもんだネ□世界中を相手に演説をしたんだからネ君　スセモヒエシミ□エ

【２２頁、上段】

【２２頁、下段】
キサアテエコツケムヤクオノエウラムナネツソレタヨカツラルヌリチトヘホニハロイ□ゲイマンとね」
「うまいもんだネ独逸語を知ツて居るんですか」
「独逸語を知ってゐるんですか！　さう告はれると僕は半分知って、半分知って居らぬやうに聞こえるぢやないか」
「あゝそうか」
「そんな失礼な訊き方をするナヨ」
「いや、どうも失礼しました」
「僕は全然知らないのだろ」「なんだオイ」
「知らないのに改まって威張ることないぢや

【２３頁、上段】

【２３頁、下段】
ないか」
「今のは出鱈目だヨ」「出鱈目かオーイ」
「いろはにほへとちりぬるたわか四十八文字を逆様

に読んだのだ」

【２４頁、上段】

「そりや一杯喰はされるネ君」

「どんな文句でも逆様に読むと独逸語に聞むるので例へばアイウエオ……ね「アイウエオ」

「アイウエオあれを逆様に読むとオエウイアとなるでせう」「ハ……コリヤ面白いね」

「するとカキクケコを逆様に読むとどうなります」「カキクケコ」「カキクケコは？」カキクケコは「コケクキカ」

「まるでこれは鶏だネ」

【２５頁、上段】

【２５頁、下段】

「これを三度やると舌を噛んぢやうよ」

「当たり前だヨ君」

「これが僕の万才学校の卒業論文でネ」

「随分変つた卒業論文だネオイ」

「併し万才学校と云へば今は世の中は何でも学校時代でネ」

「そう云へば□との物に学校がありますネ」

「中に艶かしいのは花嫁学校……」

「花嫁学校は君エロツポいね」

「この間醜いと思たらネ、生徒が全部女ですヨ」

「あたり前だ君男の花嫁学校と云ふのはないヨオイ」

「イヤ本当ですか」

「イヤ本当すぎるよ君！」

【２６頁、上段】

【２６頁、下段】

「僕の嫁も入学してネ」「君の嫁がかい」

「教へる方法が全然違ふ生徒の□□が全□□□様！」　□□様は埼□だネ君」

「一成も選りけのないステーブルファイバーでネ」「ステーブルダイバーおしい」「将来は一家の主婦になりますからネ」「さうか」「教へる読本が花嫁読本」「イヤな万程花嫁読本は君凄いネ」「巻一」「巻一」「妻の心得」「第一」「ハ第一」「妻は天に心から□れるべきこと」

「嬉しい事を教へるネ」
「上目で□出るのは夫の負□を破壊する因なりと云ふのです」
「成る程穿つた事を云ふネ君」

【２７頁、上段】

【２７頁、下段】
「第二」「第二」「第二妻は夫を□に……」
「夫を……」「煎餅と心得るべきこと……」
「煎餅オーイ？」「焼きすぎてもいかず　□かねてもいかぬ」「なるほとこんがりと焼け云ふわけだネ君」
「第三」「ハ第三」「第三妻は常に□消に心掛くべき事」
「それは一家の主婦として最も肝勞なことだ」
「家庭末梢の根本は先づ廃昂回数からとネ」
「先づ第一廃物利用が第一ですネ」
「□令要らなくなつてね□□と□は捨てないでネ」
「捨てないで」
「これは燈火舊剣の暁にお使い下さいとかネ、

【２８頁、上段】
申請前　十流　行　歌
　　□　□　の　母
四行　詠消　　兄山和歌子

【２８頁、下段】
惑ひは要らなくなつた下駄の鼻緒をネ……」
「下駄の鼻緒なんか何処に使ひます」
「よく洗つて羽織の紐に再生するとかネ」
「□ない羽織の紐だ君コリヤ」「炭□の空□」
「炭□の空□なんか何処に使ひます？」
「あれをよくほどいて□□の代わりにするとか…」
「真□な家だネオイ」
「相当は住（炭）心地が好いですヨ」

□伴奏
□（歌詞）

^上野駅から九段まで
□□知らないし□□たさ

【２９頁、上段】

申請前
十行　詠　消

【２９頁、下段】
□□□□□□□□目がかり
□□□□□□□□□た

□□□□□□□□□居
□□□□□□□□□に
□□□□やれものの□いなきに
□□□□□□□□嬉し□□

□□□□□□□□□
□□□□□□□□□ふら
□□□□□□□□□□□た
□□□□□□□□□□

【２９頁、上段】
申請前
四行　詠　消

４名流時局演芸
終

【２９頁、下段】
□□かたかの子□生んだ□□
□□□□□□□□□□□
□□□□心見せた□ば□わ□に
□□□□□□□□九段駅

～～～～～完～～～～～

【採録者:藤沼克行】
【データ校正:青木学】